

社会科 授業改善推進プラン（平成29年度） 文京区立第十中学校

(1) 学習の状況と課題

- 1年 話を正確に聞けない生徒が例年よりやや多いようである。興味関心は持っているので、学習の仕方や授業の受け方を身につけさせる必要がある。
- 2年【地理的分野】与えられた課題や作業にはしっかり取り組んでいる生徒は多いが、学習内容の定着度にはまだ個人差が見られる。
- 3年 領域診断テストの結果、都の平均を3ポイント上回っており、学年を追うごとに学習意欲が高まっており、毎回の授業に真剣に取り組むようになってきている。またそれにもなって、基礎的な力がつき始めている。現代の社会事象に興味関心の乏しい生徒が、例年に比較するとやや多く見られる。

(2) 指導改善の観点（課題解決のための具体的な授業改善策）

- 1年 ノートの取り方などを指導し、知識を定着させる。社会科に対する興味関心を重視する。事象の理由や結びつき、原因と結果を考える習慣をつけさせる。
- 2年【地理的分野】なるべく生徒たちにとって身近な話題をとりあげて、生徒の興味や関心を広げるとともに、基本的な学習内容はくりかえし確認させて定着度を上げる。
- 3年 現実の社会現象に対する興味関心を高め、指導内容とニュースを結びつけながら、机上の学習に終わらず、現実の問題としてとらえることで思考力が高まるように指導したい。

(3) 指導方法改善のポイントと方策

- 1年 ワークシートを工夫し興味を持たせる。基礎的事項を特に強調する。メモを取ることを教える。そのためにワークシートの作成に工夫する。電子黒板の利点を生かし、学習内容が言葉の学習にならないように映像を使って指導する。
- 2年【地理的分野】発問に対する回答の指名を工夫して、多くの生徒に発言の機会を与える。自分で考え自分なりの表現で回答させる。少テストなどを通して基礎的内容の定着度を深める。
- 3年 定期的に1・2年次の復習問題を配布し、知識の定着をはかる。短文で考えをまとめる機会を増やす。また新聞等のニュースを積極的に取り入れ、教科書内容と実際の社会との関連をはかることで、学習意欲を高める。